

巻頭言

St. Paul's Librarian 36号をお届けします。

昨年度に続いて感染症対策に翻弄された一年でした。しかし、今年度も、夏休みから秋にかけて、各地の図書館のみなさまが、本学から受入れをお願いしました 19名全員の図書館実習を実現してくださいました。心より御礼申しあげます。ほんとうにありがとうございました。

2021年は本学司書課程にとって、小牧龍太特任准教授、関優花教育・研究コーディネーターが揃って着任するという、大きな変化の年でした。学生たちとより年齢の近い若いスタッフが、司書課程に新風を吹き込んでくれていることを感じています。

本誌の巻頭は、2022年1月にオンラインで実施した、国際シンポジウムの記録です。この日本語訳は、司書課程主任が2021年夏に立ちあげた、“探究”を支えるキュレーション・サイト TANE.info に少しずつ公開していく予定です。また、「国際児童文学論」をテーマにはじめて取り組んだ授業の中で、スペインとオーストラリアの先生方にオンラインで両国の児童文学についてお話にいらしていただきました。その記録も掲載しています。

図書館実習報告と就職活動報告は今号も、学生たちの協力を得て多彩なものを掲載できました。「図書館実習事前指導 I」には、2019年度卒業の五十嵐雪将さん（埼玉県立久喜図書館司書）がいらしてくださいました。まだ卒業して2年弱という五十嵐さんには在生学生も質問がしやすかったようで、就職活動や実習参加に関わり、率直な、相談のような質問も寄せられるなどし、楽しい時間でした。

科目等履修生として2018年度から1年半ほど本学司書課程に在学した小野紗人子さんからの寄稿も本誌の目玉の一つです。彼女が本学の司書課程で学んだあと、図書館で働きはじめたこれまでの様子をととても丁寧に書いて報告してくださいました。小野さんや五十嵐さんが献身したいと思える図書館の仕事を得て活躍しておられる様子に触れられたことは、司書課程の教師冥利につきます。

また、小泉世津子先生から司書教諭コースの「情報メディアの活用」の、小牧龍太特任准教授からは司書コースの「図書館情報技術論」の授業実践について、報告を寄せられました。それぞれの先生方が試行錯誤を経てオリジナルな授業を毎年毎年練りあげてきていることが伝わってきて、頭が下がる思いです。

いわゆる“新しい生活様式”のもとで図書や図書館の価値が日々問い直されているようです。同時に司書課程も問われていると言えましょう。今後ともみなさまのお力をお借りしながら、司書課程の教育を時代とともに刷新していきたいと考えています。

中村 百合子
(立教大学司書課程主任)

